

◆特集対談◆地域おこし協力隊

能代市では平成26年度より始まった地域おこし協力隊ですが、現在能代市で協力隊として活躍する野口亮太さん、西村武美さんのお二人へ取材を行いました。協力隊への志望動機や活動状況を初め、活動を通して見えてきた能代市のポテンシャルについて語っていただきました。

地域おこし協力隊への参加のきっかけを教えてください。

野口…以前勤務していた旅行代理店や広告代理店では、地域に人を呼びこむ「集客」が主な業務でした。未踏の地で自分の実力を試してみたい挑戦心のようなものもあつたし、親族が東北出身だったことで、昔から東北独特の雰囲気には自分なりのブランドを感じていました。このように募集がありチャレンジしてみたいところです。

西村…大仙市出身ですが高校を卒業後、京都の芸術大学へ進学し関西を拠点に活動していました。作家活動への意欲が高まる中、秋田県内外でのまちおこしアートプロジェクトに参加する機会もふえてきた。協力隊の募集を見かけました。子供たちに芸術分野でさまざまな体験を提供できるのではと思ひ応募しました。

日々の活動を教えてください。

野口…宇宙とバスケットをテーマに、地域情報の発信を行っています。主に動画やブログ、フェイスブック、ツイッター等を利用していますが、今後はネットでの情報発信のほか、実際に人が集まる場所に直接行って告知をするなど手法を考えていきたいです。昨年12月21日の「バスケの誕生日」には代々木体育館へ星野シローとして参加したところ想像以上の反響でした。やっぱり実際見てもう一つと驚かれますね(笑)。

西村…私も宇宙とバスケットをテーマに子供たちと楽しんで創作できる活動をしています。昨年は銀河フェスティバルにあわせて巨大スペースシャトルのオブジェや、子供たちから傘に宇宙の絵を描いても



西村武美さん

らい、それをブランドにしたもの、ほかにはサンピノ等でのまちなか美術展、田楽ぬりえワークショップやバスケット社なども制作しました。子供たちが積極的にかかわってくれるのでうれしいですね。

地域おこしには地元出身のUターン者がよいのか、全く土地勘のない方がよいのかどのよう感じていますか？

野口…任期期間が3年なので地域のことを知るには十分かと言われればそうでないと思います。ただ能代の方は親切丁寧に地域の歴史文化を教えてくださいるので助かっています。そういった意味では土地勘のない方でも十分に地域活性化のお手伝いは可能だと感じています。



野口亮太さん

能代で気に入っている場所がありますか。

野口…僕は落合浜が好きです。お休みの時もなんとなく訪れることもあります。埼玉にいる時は海に縁がなかったのが海岸はやはり魅力的です。建物の管理はもうされていないようですが、あのかつてのにぎわいをほつふつさせる今の感じも好きなんです。

西村…私ははまなす画廊が気に入っています。白神山の眺めがよいのももちろんですが、一基だけの風車がまた味わい深いです。後ろには火力発電所もあり、自然と人工物の絶妙な組み合わせが癒やされます。

最後に、活動を通じて能代の課題やいいところはありますか？

野口…人口の少なさは気になりますが、バスケの知名度は本場に高い。この知名度を生かし知ってもらった後に次に何をすべきかが大事になると思います。地域おこしにも移住や少子化、産業振興などさまざまな分野での活動があるはずですが、今後は差別化を図るため分野を絞り込むことが必要になってくるのでは感じています。また能代だけではなく周辺町村の良いところと連携して広域的な視点も重要です。あと単純に子供たちが楽しそうにかかわってくれるので土地柄を感じます。優しい方々ばかりなのもとてもきな地域性ですね。

西村…私たち協力隊の活動に対して受け入れてくれるのでとても助かっています。協力的な方が多いのでとてもありがたいです。他の地域と比べていろんな活動団体が多いと感じています。その力がひとつになればもっと大きな流れも生み出せるのではないかと思います。これからも私たちはさまざまな活動を続けてまいりますので今後とも市民の皆さんと一緒に頑張っていきます。

協力隊お二人のお声を聞かせていただき、大変勉強になりました。今後地域を明るくする活動を期待しております。ありがとうございました。

取材：菊地時子 佐藤智一